

App Bridge Monitor
ユーザメッセージ監視サービスガイド

Ver. 1.19.0

目次

1. 本書の役割	1
2. ユーザーメッセージ監視とは	2
3. メッセージ送信コマンド	3
3.1 基本動作	3
3.2 インストールと設定	3
3.3 コマンド実行制限	4
3.3.1 最大実行回数制限	4
3.3.2 同時実行制限	4
3.3.3 スケーリング制御の実行制限	4
3.4 SendInfo、SendWarning、SendError	5
3.4.1 コマンド概要	5
3.4.2 コマンド様式	5
3.4.3 リターンコード	6
3.4.4 通知コード	6
3.4.5 コマンドの使用例	7
3.5 SendInfoEx、SendWarningEx、SendErrorEx	8
3.5.1 コマンド概要	8
3.5.2 コマンド様式	8
3.5.3 代替文字列	8
3.5.4 リターンコード	9
3.6 SendCondition	10
3.6.1 コマンド概要	10
3.6.2 コマンド様式	10
3.6.3 リターンコード	10
4. Amazon CloudWatch 連携	11
4.1 概要	11
4.1.1 システム構成	11
4.1.2 導入手順	11
4.2 連携ユーザの作成	12
4.3 連携トークンの作成	13
4.3.1 連携トークンの登録	13
4.3.2 連携エンドポイントの確認	16
4.3.3 連携エンドポイントの有効性検証	17
4.4 Amazon SNS の設定	18
4.4.1 トピックの作成	18
4.4.2 サブスクリプションの作成	19
4.4.3 トピック発行確認	21
4.5 Amazon CloudWatch の設定	23
5. 電子メール連携	25
5.1 概要	25

5.1.1 システム構成.....	25
5.1.2 導入手順	25
5.2 連携ユーザの作成.....	26
5.3 連携トークンの作成.....	27
5.3.1 連携トークンの登録.....	27
5.3.2 連携用電子メールアドレスの確認	29
5.4 電子メール送信確認.....	30
5.5 送信電子メールの制限	31

1. 本書の役割

本書は、App Bridge Monitor のユーザメッセージ監視について説明するものです。

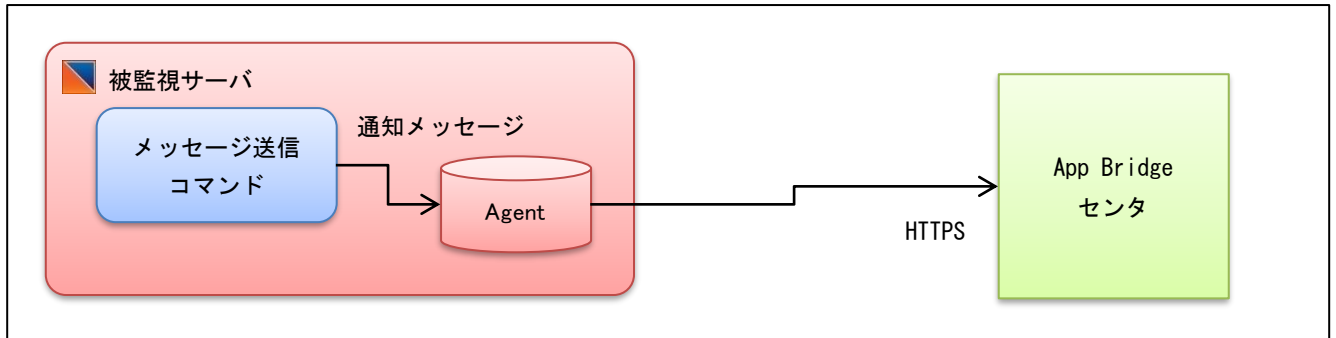
2. ユーザメッセージ監視とは

ユーザメッセージ監視とは、利用者が任意のタイミングで発行するメッセージを監視し、通知するものです。利用者は、メッセージ送信コマンド、または REST API を使用し、メッセージを送信することができます。

3. メッセージ送信コマンド

3.1 基本動作

メッセージ送信コマンドは、Agent 経由で App Bridge センタに通知メッセージを発布します。このため、メッセージ送信コマンドは、App Bridge Monitor Agent がインストールされた環境のみ動作します。



メッセージ送信コマンドを利用する際、以下の点に留意下さい。

- 通知メッセージは、他の監視データと同様に発行順で送信されます。このため App Bridge センタに送信されるまでに要する時間は、監視状況に影響されます
- Agent が何らかの原因で App Bridge センタと通信できない場合、通知メッセージは、他の監視データと同様に、リトライ対象となります
- Agent 停止状態でメッセージ送信コマンドが実行された場合、メッセージ送信コマンドは正常に終了し、Agent が起動された時点で通知メッセージが App Bridge センタへ送信されます。但し、スケーリング制御しているノードで、Agent が停止状態のとき、実行が制限される場合があります。詳細は後述の「コマンド実行制限」を参照下さい

3.2 インストールと設定

メッセージ送信コマンドは、App Bridge Monitor Windows Agent、App Bridge Monitor Linux Agent のインストーラに同梱されています。メッセージ送信コマンドは、Windows Agent の場合はインストールフォルダ下の” CLI” フォルダに存在します。Linux Agent の場合は” /opt/ucs/bin” フォルダに存在します。このため、特別なインストール、設定は必要ありません。

3.3 コマンド実行制限

メッセージ送信コマンドには、以下の実行制限が課せられます。

3.3.1 最大実行回数制限

過度な実行を抑止するため、同一コンピュータ内における同一コマンド種の実行回数が制限されます。最大実行回数を越えてコマンドを実行した場合、コマンドは処理を実行せず、リターンコード 20 で終了します。

コマンド種	1 時間当たりの最大実行回数
SendInfo、SendInfoEx、SendInfoAPI	100
SendWarning、SendWarningEx、SendWarningAPI	100
SendError、SendErrorEx、SendErrorAPI	100

- 上記制限は、SendCondition コマンドで緩和することが可能です。詳細は後述の「SendCondition」を参照下さい
- SendInfoAPI、SendWarningAPI、SendErrorAPI については、後述の「API / SendInfoAPI、SendWarningAPI、SendErrorAPI」を参照下さい

3.3.2 同時実行制限

同一コンピュータ内における同一コマンド種の同時実行は制限されます。制限されたコマンドは、先行実行中のコマンド終了を待ち、自動的に処理を再開します。

3.3.3 スケーリング制御の実行制限

スケーリング制御しているノードでは、サーバインスタンスの識別子（インスタンス ID）を Agent が決定しています。

このため、一部のコマンドでは、Agent が起動していない（インスタンス ID が決定していない）状態で起動されると実行エラーとし、リターンコード 16 で終了しています。

実行エラーの発生条件は以下のとおりです。

- 送信レベルがノードである
- 対象ノードがスケーリング制御されている
- Agent が起動していない

3.4 SendInfo、SendWarning、SendError

3.4.1 コマンド概要

被監視サーバから、App Bridge センタへメッセージを送信します。送信されたメッセージは、各種条件に従って、記録、通知されます。

3.4.2 コマンド様式

(1) 様式 1

この様式では、引数に指定された内容に従ってメッセージを送信します。

```
SendInfo      -m message [-l (owner|node)]
SendWarning   -m message [-l (owner|node)]
SendError     -m message [-l (owner|node)]
```

引数	内容	仮定値
-m	送信するメッセージを指定します。UTF8 換算で 1~8,000 バイトまで指定可能です。これ以上を指定された場合は、末尾が削除されます。 生成される通知メッセージ本文の最大は UTF8 換算で 4,000 バイトが最大です。このため、指定する値を UTF8 換算で 4,000 バイト未満とすることを推奨します。	なし
-l	送信するレベルを指定します	node

(2) 様式 2

この様式は、様式 1 の簡略系であり、引数に指定された内容に従ってメッセージを送信します。

```
SendInfo      message
SendWarning   message
SendError     message
```

本様式は、様式 1 で以下を指定したものと等価です。

引数	内容
-m	指定された message
-l	node

(3) 様式 3

この様式は、ファイル、または標準入力の内容をメッセージとして送信します。

```
SendInfo      -f filepath [-e (utf8|default)] [-l (owner|node)]
SendWarning   -f filepath [-e (utf8|default)] [-l (owner|node)]
SendError     -f filepath [-e (utf8|default)] [-l (owner|node)]
```

引数	内容	仮定値
-f	送信するメッセージが格納されたテキストファイルパス ファイルパスに *in を指定したとき、標準入力を使用します	なし
-e	-f の文字コード。*in を指定したときは無視されます utf8 : 通常の文字列 default : OS の標準文字コード	utf8
-l	送信するレベルを指定します	node

(4) 様式 4

この様式は、様式 3 の省略形であり、標準入力の内容をメッセージとして送信します。

```
SendInfo
SendWarning
SendError
```

本様式は、様式 3 で以下を指定したものと等価です。

引数	内容
-f	*in
-l	node

3.4.3 リターンコード

リターンコード	内容	備考
0	正常に終了した	
12	引数に誤りがある	※1
16	例外が発生した	※1
20	1 時間当たりの最大実行回数を超過した	

※1 : エラー情報は、標準エラー出力に出力されます

3.4.4 通知コード

本コマンドを使用した場合、通知コードは以下のとおりとなります。

コマンド	ノードレベルの通知コード	オーナーレベルの通知コード
SendError	0110-010-A	0110-020-A
SendWarning	0110-030-C	0110-040-C
SendInfo	0110-050-D	0110-060-D

3.4.5 コマンドの使用例

本コマンドを利用することで、アプリケーションからのエラー通知を実現できます。

(1) バッチの実行確認

以下の例では、Windows バッチファイルにコマンドを組み込み、リターンコードにより、結果を通知しています。

```
@echo off
yourprogram ...
IF "%ERRORLEVEL%" == "0" (
  SendInfo "yourprogram の実行に成功しました"
) else (
  SendError "yourprogram の実行に失敗しました"
)
```

(2) サーバステータスの確認

以下の例では、ShowStatus コマンド (※1) を使用し、サーバにエラーがある場合、その内容を SendError コマンドで送信しています。

```
@echo off
ShowStatus ...
IF "%ERRORLEVEL%" LSS "8" (
  SendInfo "サーバに異常は発生していません"
) else (
  ShowStatus ... | SendError
)
```

以下の例では、ShowStatus コマンド (※1) の結果を Find で抽出し、エラーのステータスを持つ行のみを SendError コマンドに引き渡しています。SendError コマンドは入力内容が空値のとき、メッセージを送信しないため、結果としてエラーが発生していた場合のみメッセージが通知されます。

```
@echo off
ShowStatus ... | Find "[Error]" | SendError
```

※1: サーバステータスを確認するコマンドです。コマンドの詳細は「App Bridge Monitor 連携ツールガイド」を参照して下さい

3.5 SendInfoEx、SendWarningEx、SendErrorEx

3.5.1 コマンド概要

SendInfo、SendWarning、SendError の拡張版であり、通知コード、件名、本文を指定可能です。

3.5.2 コマンド様式

コマンドは以下のとおりです。

```
SendInfoEx          [-c code] -s subject -m message [-l (owner|node)]
SendWarningEx       [-c code] -s subject -m message [-l (owner|node)]
SendErrorEx         [-c code] -s subject -m message [-l (owner|node)]
```

引数	内容	仮定値
-c	通知コードを指定します 形式は ZZXX-XXX-X です ZZ : 91~95 までの数字 X : 英字または数字（英小文字は大文字に変換されます）	以下が仮定されます ・ SendErrorEx : 9100-010-A ・ SendWarningEx : 9200-030-C ・ SendInfoEx : 9300-050-D
-s	件名を指定します。UTF8 換算で 1~512 バイトまで指定可能です（※1）（※2） 生成される通知メッセージ件名の最大は UTF8 換算で 200 バイトです。このため、指定する値を UTF8 換算で 200 バイト未満とすることを推奨します	なし
-m	本文を指定します。UTF8 換算で 1~8,000 バイトまで指定可能です（※1） 生成される通知メッセージ本文の最大は UTF8 換算で 4,000 バイトです。このため、指定する値を UTF8 換算で 4,000 バイト未満とすることを推奨します	なし
-l	送信するレベルを指定します	node

※1 : 最大値を超えた文字列が指定された場合、末尾が削除されます。

※2 : 改行、タブ、先頭の空白、末尾の空白は除去されます

3.5.3 代替文字列

件名、本文には以下の代替文字列が使用できます。

代替文字列	内容	備考
%GenerateTime%	事象発生日時	YYYY/MM/DD hh:mm:ss
%OwnerCD%	対象のオーナー CD	
%HostName%	事象が発生（事象を検知）したホスト名	
%NodeCD%	スケーリング制御なしの場合「ノード CD」 スケーリング制御ありの場合「ノード CD : インスタンス名」	
%MessageCD%	対象の通知コード	
%Status%	現在のステータス	Good、Warning、Error

3.5.4 リターンコード

リターンコード	内容	備考
0	正常に終了した	
12	引数に誤りがある	※1
16	例外が発生した	※1
20	1 時間当たりの最大実行回数を超過した	

※1：エラー情報は、標準エラー出力に出力されます

3.6 SendCondition

3.6.1 コマンド概要

SendInfo、SendInfoEx、SendInfoAPI、SendWarning、SendWarningEx、SendWarningAPI、SendError、SendErrorEx、SendErrorAPI の 1 時間当たり最大実行回数制限を緩和します。

3.6.2 コマンド様式

コマンドは以下のとおりです。コンソールに表示されるガイダンスに従い操作して下さい。

SendCondition

```
c:\>sendcondition
*** SendCondition ***

0. SendError/SendErrorEx
1. SendInfo/SendInfoEx
2. SendWarning/SendWarningEx

Choose Target Number
0

Current Value   : 60
Enter New Value : ■
```

3.6.3 リターンコード

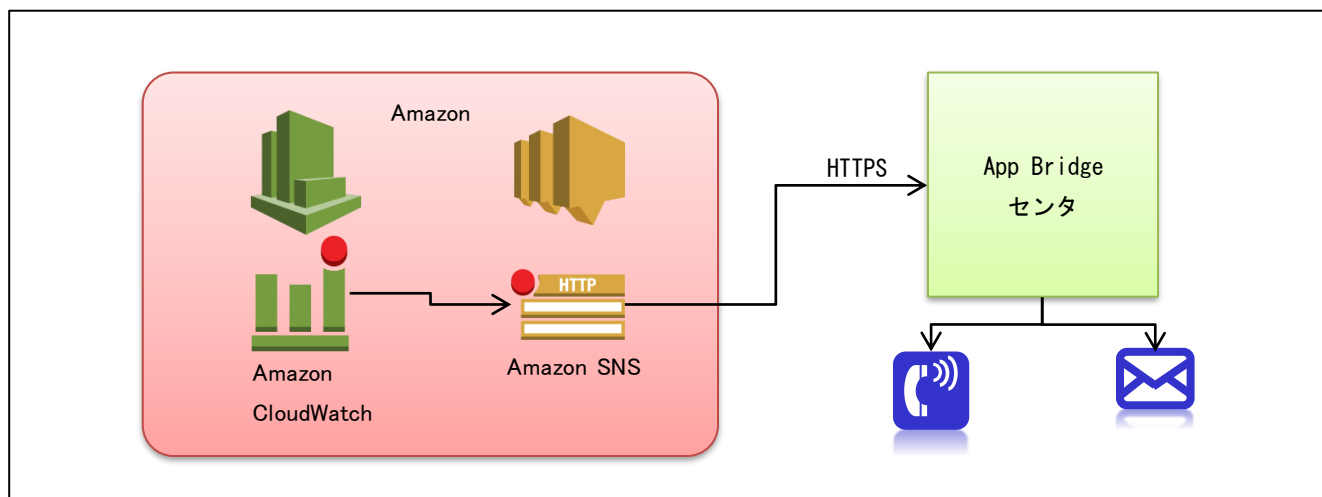
リターンコード	内容	備考
0	正常に終了した	
4	ユーザ操作により、設定を中止した	
16	例外が発生した	
20	1 時間当たりの最大実行回数を超過した	

4. Amazon CloudWatch 連携

4.1 概要

4.1.1 システム構成

Amazon CloudWatch で発生したアラームを Amazon Simple Notification Service (SNS) を経由し、App Bridge の REST API で取得します。取得された情報は、ユーザメッセージとして登録され、他のユーザメッセージと同様に振分、通知が実施されます。



4.1.2 導入手順

Amazon CloudWatch と App Bridge Monitor を連携させるための基本的な導入手順を以下に示します。

(1) CloudWatch と通知先の設計

CloudWatch の監視内容を定め、アラーム発生時に付番する通知コードと関連付けするノード（またはどのノードにも属さないオーナレベルとするか）を決定します。

(2) 連携トークン作成

App Bridge で、通知コードごと、ノードごとに連携トークンを作成します。

(3) トピックとサブスクリプション作成

Amazon SNS で、連携トークンごとにトピックを作成し、当該トピックに 1 つのサブスクリプション（App Bridge への Web フック設定）を追加します。

(4) CloudWatch 設定

Amazon CloudWatch で、アラームを作成し、Amazon SNS のトピックを設定します。

4.2 連携ユーザの作成

後述の連携トークンに設定する App Bridge ユーザを作成します。当該ユーザは、Amazon SNS からの API 呼び出しで使用されます。本ユーザは、既存のユーザではなく、連携専用 to 新規作成することを推奨します。連携ユーザの必要属性は以下のとおりです。

項目	内容	備考
ユーザ CD	任意の値	
ユーザ名	任意の値	
ロール	ServiceAdmin 以上	
メールアドレス	任意の値	
有効	オン	
備考	任意の値	
許可されたアプリケーションオーナー	任意の値	
ログイン許可	オフ	
API 利用許可	オン	
ファイルアップロード利用許可	オフ	
ファイルダウンロード利用許可	オフ	
二要素認証の強制	オフ	
課金情報参照許可	オフ	
センタ連絡先	オフ	
メッセージ通知電子メール受信	オフ	
パスワード	任意の値	

Menu > ユーザー一覧 > ユーザ登録

OK Cancel

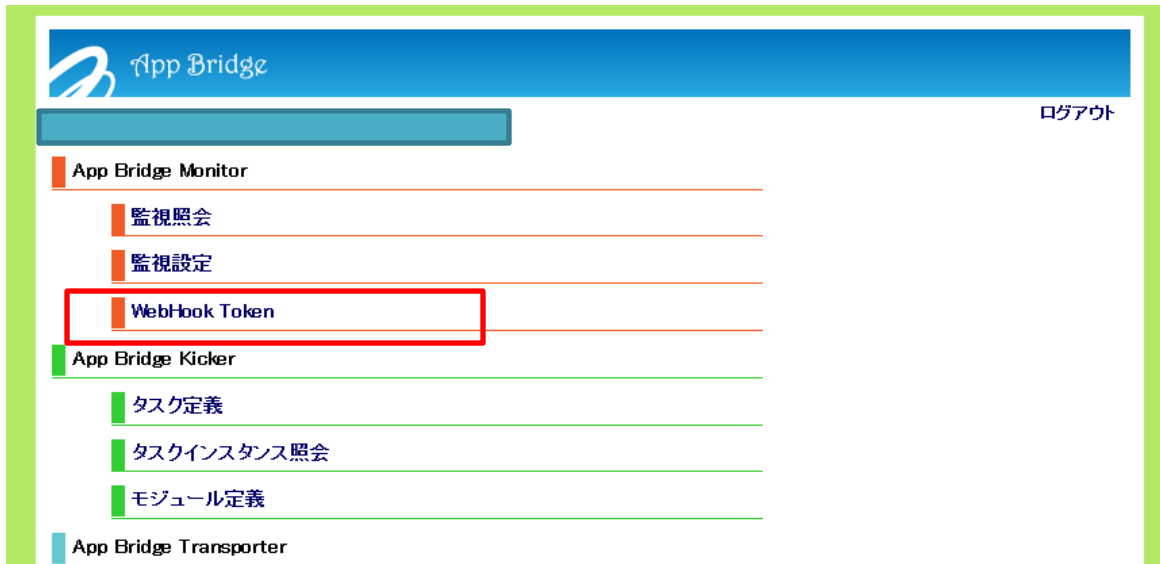
ユーザ CD	
ユーザ名	
ロール	NodeAdmin
メールアドレス	
有効	☐
備考	
許可されたアプリケーションオーナー	☒すべてのアプリケーションオーナーを許可する オーナー CD はカンマ区切りで入力してください
ログイン許可	☐
API 利用許可	☐
ファイルアップロード利用許可	☐
ファイルダウンロード利用許可	☐
二要素認証の強制	☐
課金情報参照許可	☐
センタ連絡先	☐
メッセージ通知電子メール受信	☐
パスワード	☐パスワードを入力する (再入力)

ユーザの作成方法の詳細は、「App Bridge 管理者ガイド」参照下さい。

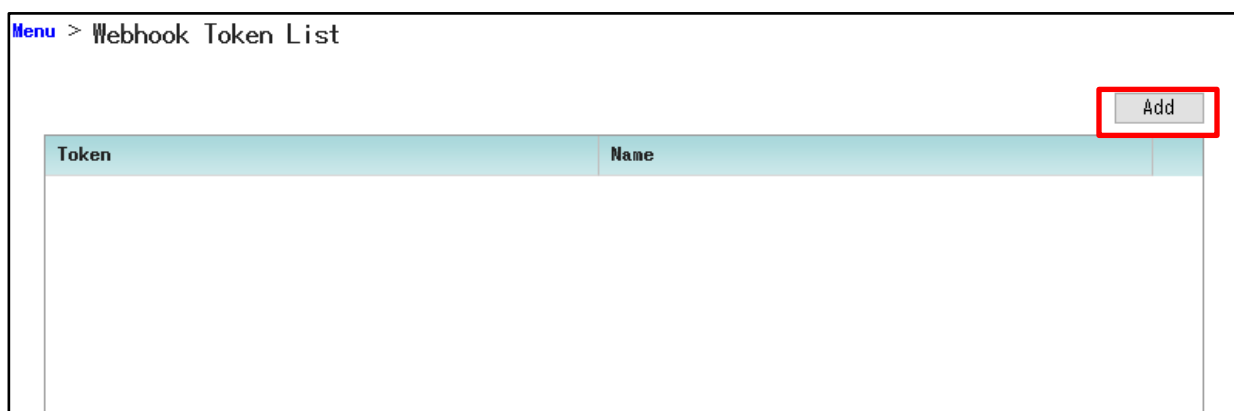
4.3 連携トークンの作成

4.3.1 連携トークンの登録

Web サイトで連携トークンを作成します。Web サイトに ServiceAdmin 以上の権限でログインし、Web Hook Token を選択します。



表示されたトークンリスト画面で、[Add] ボタンをクリックします。



表示された登録画面で項目を設定し、[OK] ボタンをクリックします。

Menu > Webhook Token List > Webhook Token Entry

User (User CD / User Name)	-
User Password	
Name	
Notification Type	Error
Notification CD	
Node CD (Option)	-
Analyze Hook Data	☐ CloudWatch Alarm Name ☐ CloudWatch State Change ☐ Mail Subject ☐ Mail Body

項目	内容												
User	前節で作成した連携ユーザのユーザ CD を指定する												
User Password	前節で作成した連携ユーザのパスワードを指定する												
Name	トークンの名称を指定する。トークン名には、サロゲートペア、制御文字以外の文字列を最大 50 文字まで指定できる												
Notification Type	CloudWatch 連携で作成される通知メッセージのメッセージ種別を指定する												
Notification CD	CloudWatch 連携で作成される通知メッセージの通知コードを指定する。 通知コードの形式は ZZXX-XXX-X ZZ : 91~95 までの数字 X : 英字または数字（英小文字は大文字に変換される）												
Node CD (Option)	CloudWatch 連携で作成される通知メッセージをノードレベルとした場合、対象のノード CD を指定する。指定を省略した場合、通知メッセージはオーナレベルとなる												
Analyze Hook Data/ CloudWatch Alarm Name	CloudWatch から連携された AlarmName に埋め込みデータを発見したとき、当該データに従って通知メッセージを設定する <table border="1"> <tr> <th>埋め込みデータ</th><th>作成される通知メッセージ</th></tr> <tr> <td>[0:Info]</td><td>メッセージ種別を Information とする</td></tr> <tr> <td>[0:Warn]</td><td>メッセージ種別を Warning とする</td></tr> <tr> <td>[0:Err]</td><td>メッセージ種別を Error とする</td></tr> <tr> <td>[1:XXXX-XXX-X]</td><td>埋め込みデータの XXXX-XXX-X を通知コードとする</td></tr> <tr> <td>[2:XXXXXX]</td><td>埋め込みデータの XXXXXX をノード CD とする</td></tr> </table>	埋め込みデータ	作成される通知メッセージ	[0:Info]	メッセージ種別を Information とする	[0:Warn]	メッセージ種別を Warning とする	[0:Err]	メッセージ種別を Error とする	[1:XXXX-XXX-X]	埋め込みデータの XXXX-XXX-X を通知コードとする	[2:XXXXXX]	埋め込みデータの XXXXXX をノード CD とする
埋め込みデータ	作成される通知メッセージ												
[0:Info]	メッセージ種別を Information とする												
[0:Warn]	メッセージ種別を Warning とする												
[0:Err]	メッセージ種別を Error とする												
[1:XXXX-XXX-X]	埋め込みデータの XXXX-XXX-X を通知コードとする												
[2:XXXXXX]	埋め込みデータの XXXXXX をノード CD とする												
Analyze Hook Data/ CloudWatch State Change	CloudWatch から連携された NewStateValue を使って通知メッセージのメッセージ種別を設定する <table border="1"> <tr> <th>NewStateValue</th><th>設定するメッセージ種別 e</th></tr> <tr> <td>good</td><td>Information</td></tr> <tr> <td>alarm</td><td>Error</td></tr> <tr> <td>上記以外</td><td>Warning</td></tr> </table>	NewStateValue	設定するメッセージ種別 e	good	Information	alarm	Error	上記以外	Warning				
NewStateValue	設定するメッセージ種別 e												
good	Information												
alarm	Error												
上記以外	Warning												

メッセージ種別は以下の順で決定される。

- Analyze Hook Data/CloudWatch State Change
- Analyze Hook Data/CloudWatch Alarm Name
- Notification Type

通知コードは以下の順で決定される。

- Analyze Hook Data/CloudWatch Alarm Name

- Notification CD

ノードは以下の順で決定される。

- Analyze Hook Data/CloudWatch Alarm Name
- Node CD (Option)

4.3.2 連携エンドポイントの確認

連携トークンを作成したあと、トークンリストでトークンを選択し、トークン詳細を表示します。トークン詳細では、CloudWatch 連携で必要となる連携エンドポイント（URL）が確認でき、内容をクリップボードにコピーできます。

Menu > Webhook Token List > Webhook Token Detail

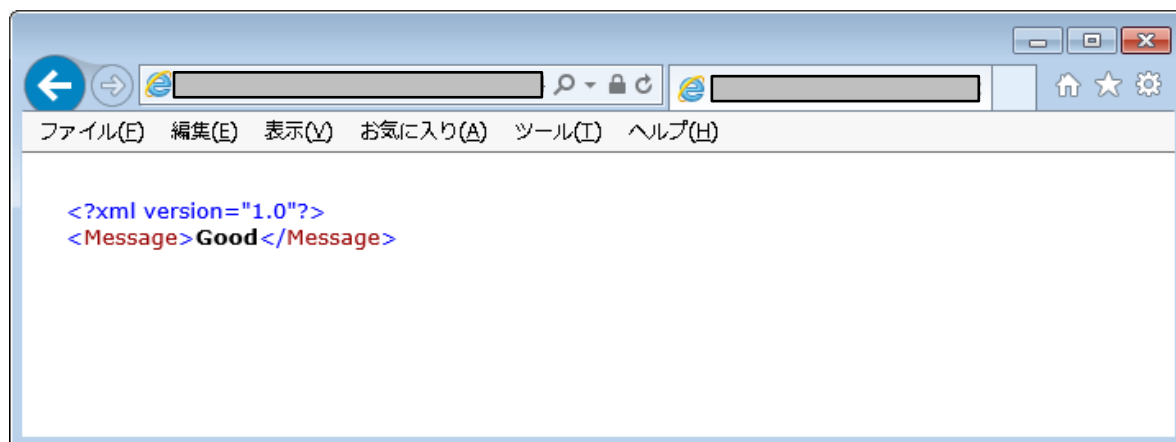
Update Delete

Token	bbbf39cda3434212811a3ddf3cd9814f
User (User CD / User Name)	sampleuser1 / サンプルユーザ 1
Name	CloudWatch Token #1
Notification Type	Error
Notification CD	91AA-BBB-Z
Node CD (Option)	-
Analyze Hook Data	☒ CloudWatch Alarm Name ☒ CloudWatch State Change ☐ Mail Subject ☐ Mail Body

RelayType	RelayPoint
CloudWatch	Copy
E-Mail	Copy

4.3.3 連携エンドポイントの有効性検証

連携エンドポイントをブラウザのアドレスに入力することで、連携エンドポイントの有効性を検証できます。以下の XML が表示されれば、連携エンドポイントは有効です。



上記 XML 以外が表示された場合、作成した連携エンドポイントに誤りがあります。



代表的なエラーと想定される原因は以下のとおりです。

代表的なエラー	想定される原因
404 NotFound	・ URL に誤りがある
401 Unauthorized	・ 引数 token が指定されていない ・ 指定された連携トークンが存在しない ・ 連携トークンに関連付けられた連携ユーザに問題がある ・ 連携トークンのオーナーと URL のオーナーが一致しない
400 BadRequest	・ 連携トークンに関連付けられたオーナーに問題がある ・ 連携トークンに関連付けられたノードに問題がある

4.4 Amazon SNS の設定

4.4.1 トピックの作成

Amazon SNS のトピックを作成します。基本的には、前項で作成した連携トークンごとにトピックを作成します。

Amazon SNS のトピックを作成するには、Amazon コンソールにログインし、SNS ダッシュボードから[新しいトピックの作成]をクリックします。



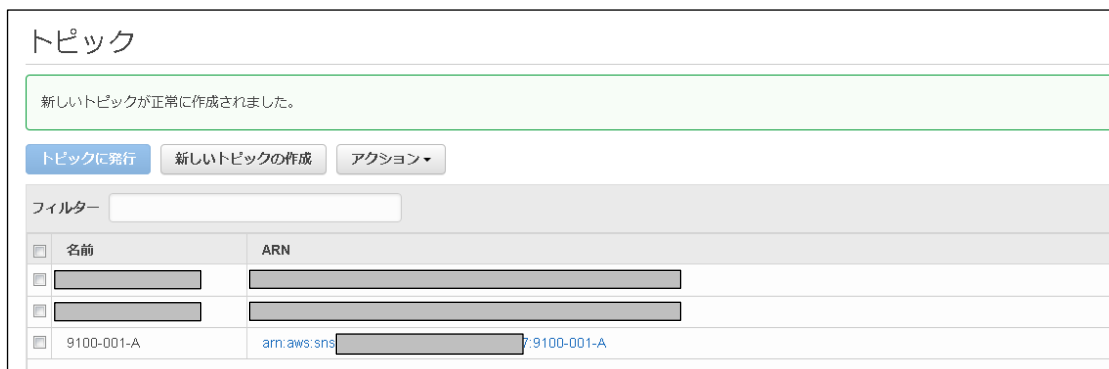
The screenshot shows the 'Topics' page in the Amazon SNS console. At the top, there are three buttons: 'トピックに発行' (Publish to topic), '新しいトピックの作成' (Create new topic), and 'アクション' (Actions). The '新しいトピックの作成' button is highlighted with a red rectangular box. Below the buttons is a 'フィルター' (Filter) input field. A table lists existing topics with columns for '名前' (Name) and 'ARN'. There are two rows of placeholder topics.

表示された画面で、トピック名と表示名を入力し、[トピックの作成]をクリックします。



The screenshot shows the '新しいトピックの作成' (Create new topic) form. It includes a note: 'トピック名は、Amazon リソースネーム (ARN) と呼ばれる一意の永続識別子の作成に使用されます。' (Topic names are used to create a unique, permanent identifier called an Amazon Resource Name (ARN)). There are two input fields: 'トピック名' (Topic name) and '表示名' (Display name), both containing the value '9100-001-A'. At the bottom right, there are two buttons: 'キャンセル' (Cancel) and 'トピックの作成' (Create topic).

トピックが作成されます。



The screenshot shows the 'Topics' page after a new topic has been created. A green message box at the top states: '新しいトピックが正常に作成されました。' (New topic created successfully). The '新しいトピックの作成' button is no longer highlighted. The table now shows three topics, with the newly created one having the name '9100-001-A' and the ARN 'arn:aws:sns:9100-001-A'.

4.4.2 サブスクリプションの作成

トピックに App Bridge 向けのサブスクリプションを作成します。

サブスクリプションを作成するには、Amazon コンソールにログインし、対象トピックの ARN をクリックします。

トピック

新しいトピックが正常に作成されました。

トピックに発行 新しいトピックの作成 アクション ▼

フィルター

名前	ARN
9100-001-A	arn:aws:sns:9100-001-A

表示された画面で、[サブスクリプションの作成]をクリックします。

トピックの詳細: 9100-001-A

トピックに発行 その他のトピックの操作 ▼

トピック ARN: arn:aws:sns:9100-001-A
トピックの所有者:
リージョン:
表示名: 9100-001-A

サブスクリプション

サブスクリプションの作成 リクエストの確認 サブスクリプションを確認 その他のサブスクリプションの操作 ▼

フィルター

サブスクリプション ID	プロトコル	エンドポイント	受信者
--------------	-------	---------	-----

表示された画面で、プロトコルに HTTPS を選択し、エンドポイントに前節で作成した「連携エンドポイント」を入力して、「サブスクリプションの作成」をクリックします。

サブスクリプションの作成

トピック ARN: arn:aws:sns:9100-001-A

プロトコル: HTTPS

エンドポイント:

キャンセル サブスクリプションの作成

登録されたサブスクリプションは、指定されたプロトコル/エンドポイントにアクセスし、登録処理を実施します。登録処理中は、サブスクリプションが「PendingConfirmation」となり、登録処理が完了するとサブスクリプション ID (ARN) が表示されます。

サブスクリプション

サブスクリプションの作成

リクエストの確認

サブスクリプションを確認

その他のサブスクリプションの操作 ▾

フィルター

☐	サブスクリプション ID	登録処理完了	プロトコル	エンドポイント
☐	arn:aws:sns: :9100-001-A:cd6c982c-4375-4026-9bac-c50c...		https	
☐	PendingConfirmation		https	

登録処理中

登録処理が失敗した場合、PendingConfirmation のままとなり、数日後に自動消去されます
サブスクリプション作成を指示してから数分が経過しても PendingConfirmation のままであれば、入力した連携エンドポイントを確認して下さい

4.4.3 トピック発行確認

登録したトピックの発行を確認します。

トピックの発行を確認するには、Amazon コンソールにログインし、対象トピックの詳細から、[トピックに発行]をクリックします。

トピックの詳細: 9100-001-A

トピックに発行

その他のトピックの操作 ▾

トピック ARN

arn:aws:sns: :9100-001-A

トピックの所有者

リージョン

表示名

9100-001-A

サブスクリプション

サブスクリプションの作成

リクエストの確認

サブスクリプションを確認

その他のサブスクリプション

フィルター

☐	サブスクリプション ID	プロトコル
☐	arn:aws:sns: :9100-001-A:cd6c982c-4375-4026-9bac-c50c...	https

表示された画面で、件名、本文を入力し、[メッセージの発行]をクリックします。

メッセージを発行

Amazon SNS でトピックに関連付けられたすべてのサブスクリプションに通知を発行できます。また、プラットフォームアプリケーションに関連付けられた個別のエンドポイントに通知を発行することもできます。

トピック ARN

arn:aws:sns: :9100-001-A

件名

テスト件名

メッセージ形式

☒ Raw ☐ JSON

メッセージ

テスト本文

JSON message generator

有効期限 (TTL)

メッセージ属性

キー

属性のタイプ ▾

値または ["値1", "値2"]

キャンセル

メッセージの発行

App Bridge Monitor に通知メッセージが作成されていることを確認します。

Menu > ノード一覧 > 通知メッセージ一覧 > 通知メッセージ詳細

確認済に変更する

発生日時	2018-07-12 09:27:34
ノードCD	
インスタンス名	
モニタ種別	通知メッセージ
メッセージ種別	未確認のエラーメッセージ
発生理由	メッセージ受信
通知コード	9100-001-A
件名	【CloudWatch Notification】 9100-001-A テスト件名
本文	[OwnerCD] [NodeCD] [TopicArn] arn:aws:sns: :9100-001-A [MessageId] 2f8bda7f-50dd-5be3-add2-89bff26b0507 テスト本文
確認状況	未確認
通知先	通知先照会

4.5 Amazon CloudWatch の設定

Amazon CloudWatch で、アラームを作成し、通知の送信先には、前節で作成したトピックを指定します。

アラームの作成

CloudWatch アラームを使用すると、メトリクスデータが定義したレベルに達したときに、自動的に通知されます。
アラームを編集するには、最初に通知先を選択してから、通知を送信するタイミングを定義します。

☒ 通知の送信先: 9100-001- [redacted] [トピックを作成](#)

次の時: 最小 / HTTP 4XXs

状況: >= 1 カウント

最低期間: 1 回連続で 1 分

アラーム名: ALB_4xxs_Alarm

HTTP 4XXs カウント

前節で作成したトピックを選択します

[キャンセル](#) [アラームの作成](#)

連携トークンで、Analyze Hook Data/CloudWatch をオンとしているとき、アラーム名に以下の埋め込みデータを含ませることで、生成される通知メッセージの内容を変更することができます。

埋め込みデータ	作成される通知メッセージ
[0:Info]	メッセージ種別を Information とする
[0:Warn]	メッセージ種別を Warning とする
[0:Err]	メッセージ種別を Error とする
[1:XXXX-XXX-X]	埋め込みデータの XXXX-XXX-X を通知コードとする
[2:XXXXXX]	埋め込みデータの XXXXXX をノード CD とする

アラームが発生すると、App Bridge Monitor で通知メッセージが作成されます。

Menu > ノード一覧 > 通知メッセージ一覧 > 通知メッセージ詳細

確認済に変更する

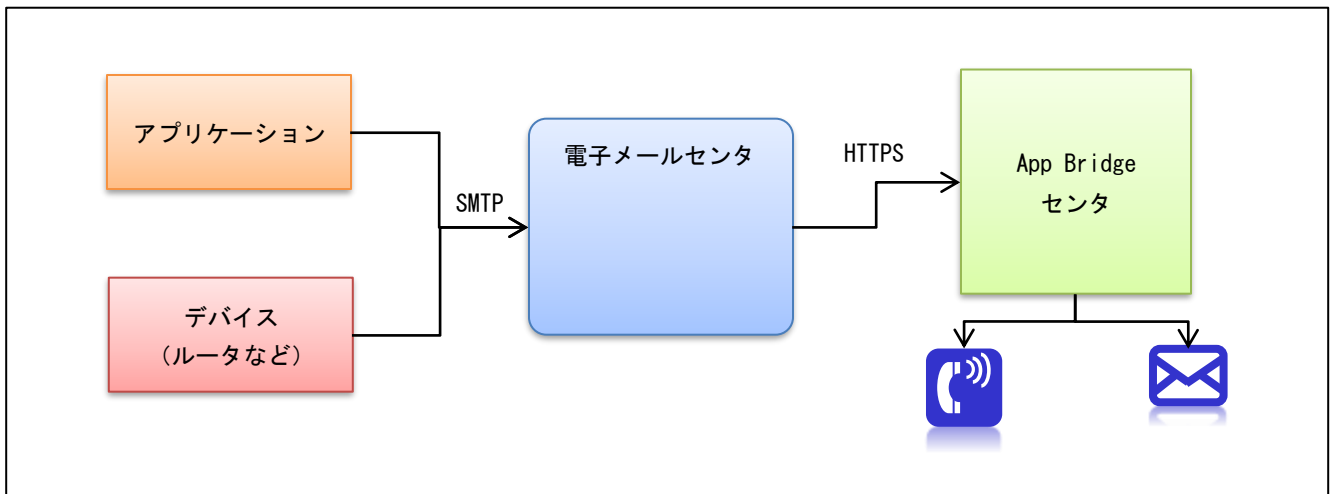
発生日時	2018-07-12 11:34:32
ノードCD	
インスタンス名	
モニタ種別	通知メッセージ
メッセージ種別	未確認のエラーメッセージ
発生理由	メッセージ受信
通知コード	9100-001-A
件名	【CloudWatch Notification】 9100-001-A ALARM: "ALB_4xxs_Alarm" in Asia Pacific (Tokyo)
本文	[OwnerCD] [Redacted] [NodeCD] [Redacted] [TopicArn] arn:aws:sns:[Redacted]:9100-001-A [MessageId] 99c5c7c4-0ff7-5f67-9c68-9404cf8f989c [AlarmName] ALB_4xxs_Alarm [Description] Created from EC2 Console [AccountId] [Redacted] [Region] Asia Pacific (Tokyo) [StateChange] Thu Jul 12 02:34:32.015 UTC 2018 [State] INSUFFICIENT_DATA->ALARM [StateReason] Threshold Crossed: 1 datapoint [1.0 (12/07/18 02:32:00)] was greater than or equal to the threshold (1.0). [Namespace] AWS/ApplicationELB [MetricName] HTTPCode_Target_4XX_Count [Dimensions] LoadBalancer:[Redacted]
確認状況	未確認
通知先	通知先照会

5. 電子メール連携

5.1 概要

5.1.1 システム構成

各種アプリケーションやデバイスから送信された電子メールを電子メールセンタで受信し、App Bridge の REST API に連携します。連携された情報は、ユーザメッセージとして登録され、他のユーザメッセージと同様に振分、通知が実施されます。



5.1.2 導入手順

電子メールと App Bridge Monitor を連携させるための基本的な導入手順を以下に示します。

(1) 通知先の設計

アラーム発生時に付番する通知コードと関連付けするノード（またはどのノードにも属さないオーナレベルとするか）を決定します。

(2) 連携トークン作成

App Bridge で、通知コードごと、ノードごとに連携トークンを作成します。

(3) 電子メール送信設定

アプリケーション、デバイスのメール送信先に、連携トークンが示す電子メールアドレスを指定します。

5.2 連携ユーザの作成

後述の連携トークンに設定する App Bridge ユーザを作成します。当該ユーザは、電子メールセンタからの API 呼び出しで使用されます。本ユーザは、既存のユーザではなく、連携専用に新規作成することを推奨します。連携ユーザの必要属性は以下のとおりです。

項目	内容	備考
ユーザ CD	任意	
ユーザ名	任意	
ロール	ServiceAdmin 以上	
メールアドレス	任意 本アドレスを連携電子メールの送信者（From）に指定します	
有効	オン	
備考	任意	
許可されたアプリケーションオーナー	任意	
ログイン許可	オフ	
API 利用許可	オン	
ファイルアップロード利用許可	オフ	
ファイルダウンロード利用許可	オフ	
センタ連絡先	オフ	
メッセージ通知電子メール受信	オフ	
パスワード	任意	

Menu > ユーザー一覧 > ユーザ登録

OK Cancel

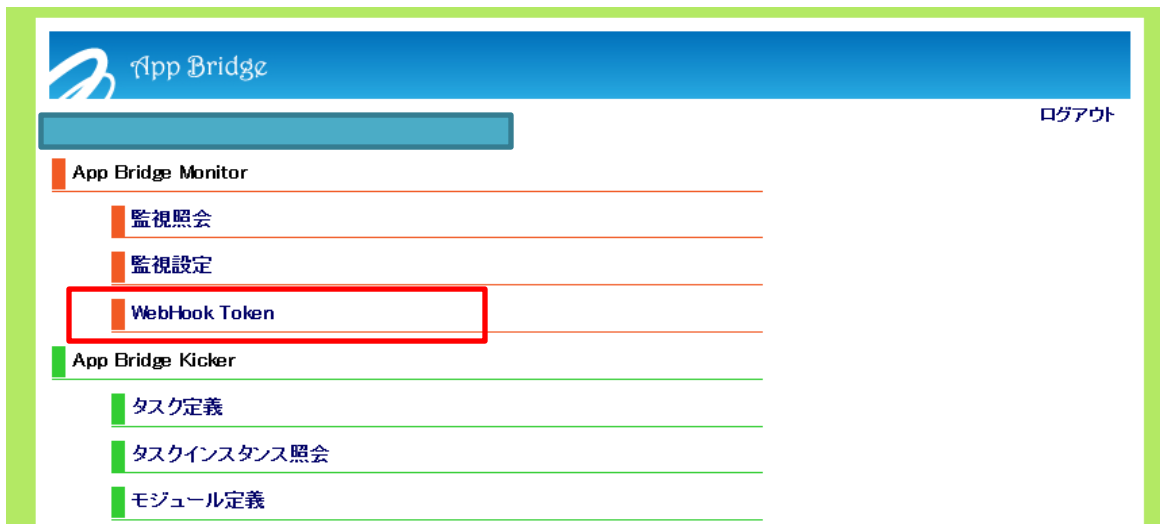
ユーザCD	hookuser
ユーザ名	Webフックユーザ
ロール	ServiceAdmin ▼
メールアドレス	XXXX@sample.com
有効	☒
備考	
許可されたアプリケーションオーナーCD	☒ すべてのアプリケーションオーナーを許可する オーナーCDはカンマ区切りで入力してください
ログイン許可	☐
API利用許可	☒
ファイルアップロード利用許可	☐
ファイルダウンロード利用許可	☐
センタ連絡先	☐
メッセージ通知電子メール受信	☐
パスワード	☐ パスワードを入力する (再入力)

ユーザの作成方法の詳細は、「App Bridge 管理者ガイド」参照下さい。

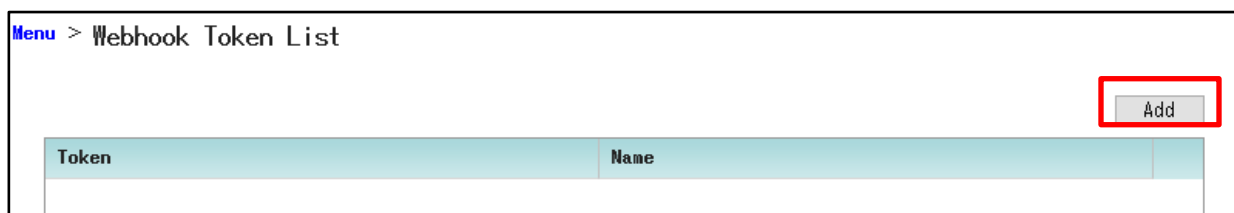
5.3 連携トークンの作成

5.3.1 連携トークンの登録

Web サイトで連携トークンを作成します。Web サイトに ServiceAdmin 以上の権限でログインし、Web Hook Token を選択します。



表示されたトークンリスト画面で、[Add] ボタンをクリックします。



表示された登録画面で項目を設定し、[OK]ボタンをクリックします。

Menu > Webhook Token List > Webhook Token Entry

OKCancel

User (User CD / User Name)	-
User Password	
Name	
Notification Type	Error
Notification CD	
Node CD (Option)	-
Analyze Hook Data	☐ CloudWatch Alarm Name ☐ CloudWatch State Change ☐ Mail Subject ☐ Mail Body

項目	内容												
User	前節で作成した連携ユーザのユーザ CD を指定する												
User Password	前節で作成した連携ユーザのパスワードを指定する												
Name	トークンの名称を指定する。トークン名には、サロゲートペア、制御文字以外の文字列を最大 50 文字まで指定できる												
Notification Type	電子メール連携で作成される通知メッセージのメッセージ種別を指定する												
Notification CD	電子メール連携で作成される通知メッセージの通知コードを指定する。 通知コードの形式は ZZXX-XXX-X ZZ : 91～95 までの数字 X : 英字または数字（英小文字は大文字に変換される）												
Node CD (Option)	電子メール連携で作成される通知メッセージをノードレベルとした場合、対象のノード CD を指定する。指定を省略した場合、通知メッセージはオーナレベルとなる												
Analyze Hook Data/ Mail Subject	電子メールの件名に埋め込みデータを発見すると、当該データに従って通知メッセージを設定する <table><tr><td>埋め込みデータ</td><td>作成される通知メッセージ</td></tr><tr><td>[0:Info]</td><td>メッセージ種別を Information とする</td></tr><tr><td>[0:Warn]</td><td>メッセージ種別を Warning とする</td></tr><tr><td>[0:Err]</td><td>メッセージ種別を Error とする</td></tr><tr><td>[1:XXXX-XXX-X]</td><td>埋め込みデータの XXXX-XXX-X を通知コードとする</td></tr><tr><td>[2:XXXXXX]</td><td>埋め込みデータの XXXXXX をノード CD とする</td></tr></table>	埋め込みデータ	作成される通知メッセージ	[0:Info]	メッセージ種別を Information とする	[0:Warn]	メッセージ種別を Warning とする	[0:Err]	メッセージ種別を Error とする	[1:XXXX-XXX-X]	埋め込みデータの XXXX-XXX-X を通知コードとする	[2:XXXXXX]	埋め込みデータの XXXXXX をノード CD とする
埋め込みデータ	作成される通知メッセージ												
[0:Info]	メッセージ種別を Information とする												
[0:Warn]	メッセージ種別を Warning とする												
[0:Err]	メッセージ種別を Error とする												
[1:XXXX-XXX-X]	埋め込みデータの XXXX-XXX-X を通知コードとする												
[2:XXXXXX]	埋め込みデータの XXXXXX をノード CD とする												
Analyze Hook Data/ Mail Body	電子メールの本文に埋め込みデータを発見すると、当該データに従って通知メッセージを設定する。対象とする埋め込みデータは件名と同じである												

メッセージ種別、通知コード、ノードは以下の順で決定される。

- Analyze Hook Data/Mail Subject
- Analyze Hook Data/CloudWatch Alarm Name
- Notification Type、Notification CD、Node CD (Option)

5.3.2 連携用電子メールアドレスの確認

連携トークンを作成したあと、トークンリストでトークンを選択し、トークン詳細を表示します。トークン詳細では、連携用電子メールアドレス送信先が確認でき、内容をクリップボードにコピーできます。

Menu > Webhook Token List > Webhook Token Detail

Update Delete

Token	bbbf39cda3434212811a3ddf3cd9814f
User (User CD / User Name)	sampleuser1 / サンプルユーザ 1
Name	CloudWatch Token #1
Notification Type	Error
Notification CD	91AA-BBB-Z
Node CD (Option)	-
Analyze Hook Data	☐ CloudWatch Alarm Name ☐ CloudWatch State Change ☒ Mail Subject ☒ Mail Body

RelayType	RelayPoint
CloudWatch	Copy
E-Mail	Copy

5.4 電子メール送信確認

連携用電子メールアドレスに電子メール送信し、通知メッセージが作成されることを確認して下さい。

連携用電子メールアドレスは、TO、CC、BCC のいずれに指定しても構いません。電子メール送信者 (From) のアドレスは、連携ユーザに登録された電子メールアドレスとして下さい。

正しく処理されれば、通知メッセージが作成されます。

Menu > ノード一覧 > 通知メッセージ一覧 > 通知メッセージ詳細

確認済に変更する

発生日時	2018-10-19 15:29:34
ノードID	
インスタンス名	
モニタ種別	通知メッセージ
メッセージ種別	未確認のエラーメッセージ
発生理由	メッセージ受信
通知コード	91AA-BBB-Z
件名	【Mail Notification Error】 91AA-BBB-Z [] 電子メール連携テスト
本文	本メールは、電子メール連携テストの送信メールです
確認状況	未確認
通知先	通知先照会

5.5 送信電子メールの制限

送信する電子メールには、以下の制限があります。

- 電子メール送信者（From）のアドレスは、連携ユーザに登録された電子メールアドレスであること
- 電子メール受信時点で連携ユーザは必要属性を満たしていること
- 電子メールのサイズ（※1）は 10MB 未満であること（※2）
- 電子メールの本文書式はプレーンテキストであること（※3）
- 電子メール本文の文字コードは、UTF-8、UNICODE、シフト JIS の何れかであること（※4）

※1：ヘッダ、本文、添付ファイルなど含めたメッセージ全体の合計値

※2：本制限以外に、メールの中継点でより厳しいサイズ制限が設けられている場合や、送信可能な添付ファイルの種類に制限が設けられている場合など、メール送信がブロックされる場合もある。このため電子メールサイズは可能な限り小さく、添付ファイルを使用しない形が望ましい

※3：HTML などプレーンテキスト以外の形式で送信された場合、処理結果を保証できない

※4：他の文字コードで送信された場合、処理結果を保証できない